

No.	分野	該当箇所	市議会からの意見	市の考え方（回答）	計画図書への反映 （要・不要）
1	安全・環境	交通安全・防犯	『展開方向1』の『手段』として、「夕暮れ時は、早めのライトを点灯の励行、反射材を活用し、ヘルメット着用の促進を実施します。」を追記してはどうか。	追記する内容は、市としても必要な手段の1つと考えており、展開方向1の手段として記載している4項目の中に、ご指摘の内容も含まれていると考えます。	不要
2	安全・環境	交通安全・防犯	『展開方向2』の『指標』として、「迷惑電話防止機能付電話の設置数」を加えてはどうか。	現在、防犯対策補助金の補助対象の1つであることから、補助件数については把握しております。しかしながら、本補助金の補助対象は犯罪情勢や新たな防犯対策の進展などにより、これまでも幾重にも見直しを行ってきているところであります。そのため、個別の補助対象件数を指標として設定することは避けるべきと考えます。	不要
3	安全・環境	ごみ・資源・エネルギー	『展開方向2』の『手段』として、「家庭で排出される生ごみの民間バイオマス発電への利用など、ごみの減量化と再資源化を同時に進めることができる可能性を調査・研究していきます。」を追記してはどうか。	『展開方向2』の『手段』に、「ごみの減量化と再資源化を推進するため、家庭から排出される生ごみを民間のバイオマス発電施設に利用するなど、調査・研究していきます。」を追記します。	要
4	安全・環境	ごみ・資源・エネルギー	『展開方向3』の『手段』に記載のある「住宅用地球温暖化対策設備設置費補助金」について補足説明を追記してはどうか。 《補足説明》 太陽光発電による電力創出・省エネルギー設備の導入・外皮の高断熱利用などにより、生活で消費するエネルギーよりも生み出すエネルギーが上回るZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）住宅用設備、HEMS（家庭用エネルギー管理システム）、V2H（電気自動車等充給電設備）等の導入に対する（住宅用地球温暖化対策設備設置費補助金など、…）	令和5年度の住宅用地球温暖化対策設備設置費補助金については、単体のHEMS（家庭用エネルギー管理システム）、燃料電池、蓄電池、V2H（電気自動車等充給電設備）や、ZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）、太陽光発電設備を蓄電池等と一体的に導入する場合を対象としています。今後対象設備の見直しも想定されるため、具体的な設備ではなく補助金の目的を追記することで、わかりやすく修正します。	要

No.	分野	該当箇所	市議会からの意見	市の考え方（回答）	計画図書への反映 (要・不要)
5	健康・福祉	健康・予防	<p>『展開方向4』の『指標』にある「いきいき世代個別歯科健診受診率」を「歯科検診受診率」に変更してはどうか。</p> <p>《理由》 「いきいき世代」は40歳以上が対象となるが、全世代に対象を広げた方がよいと考えるため。</p>	<p>本市では、ライフステージに応じ、様々な歯科健診事業を実施しています。このうち、今回指標として掲げた「いきいき世代個別歯科健診事業」は、健康増進法に基づいて実施しており、愛知県において同様の対象者に対する県下の健診結果を評価しています。そのため、この指標を活用することで本市の経年比較のみならず、県の評価結果や県下他自治体の結果との比較も可能となります。</p> <p>全世代の歯科健診事業の受診率を指標として用いた場合、県の評価や他自治体との比較が難しくなるため、様々な歯科健診のうち、いきいき世代個別歯科健診の受診率を指標として選定しています。</p>	不要
6	健康・福祉	健康・予防	<p>『展開方向4』の『指標』として、「肺がん検診受診率」、「胃がん検診受診率」、「子宮がん検診受診率」、「前立腺がん検診受診率」を加えてはどうか。</p> <p>《補足》 日本人は、「肺がん」による死亡数が多い。</p>	<p>当初では、厚生労働省ががん検診の効果が科学的に証明され推奨されている「胃がん検診」、「大腸がん検診」、「肺がん検診」、「乳がん検診」、「子宮頸がん検診」の5つのがん検診のうち、男女ともに罹患率が高い「大腸がん」及び「乳がん」の検診受診率の向上を目指し指標と決めました。</p> <p>ご意見のありましたとおり、命を守るためには早期発見が必要であり、5つのがん検診は厚生労働省において推奨されているものであることから、当該指標に「胃がん検診」、「子宮頸がん検診」、「肺がん検診」の受診率を追加し、適切に進捗管理を行ってまいります。</p> <p>前立腺がん検診については、検診受診により死亡率の減少のエビデンスが確立されていない分類のがん検診のため、他自治体においても指標としないことから見送りとさせていただきます。</p>	要

No.	分野	該当箇所	市議会からの意見	市の考え方（回答）	計画図書への反映 （要・不要）
7	健康・福祉	医療保険・地域医療	『展開方向3』の『指標』として、『市民病院への紹介率』、『市民病院からの逆紹介率』を加えてはどうか。 《補足》 医療機関の相互連携により、質の高い地域医療体制を目指すとしていることから、いずれの指標も目指す方向は「↑」とする。	紹介率・逆紹介率は地域医療支援病院の承認要件に定められており、市民病院では「紹介率65%以上かつ逆紹介率40%以上の維持」を目標に掲げております。現在、当院では地域医療連携の強化を推進しており、紹介率・逆紹介率は高い水準で推移しています。 【令和5年度（11月末現在）：紹介率77.1%、逆紹介率91.4%】 上述のとおり、目標は達成されていることから第2次基本計画（案）では削除させていただいております。 なお、紹介状を持参しないで受診した場合にかかる選定療養費を負担してでも受診を希望される患者さんが一定数存在することから、紹介率・逆紹介率の更なる向上は難しいと考えております。	不要
8	教育・子育て	学校教育	『展開方向2』の『手段』として、「不登校児童生徒への支援を強化する。」を加えてはどうか。	手段「スクールソーシャルワーカーや学校生活サポーターなどによる支援を強化します」を「不登校や特別な支援が必要な児童生徒に対して、学校カウンセラー、スクールソーシャルワーカー、学校生活サポーターなどによる支援を強化します」に変更します。	要
9	教育・子育て	幼児教育・保育	『現況と課題』の『4つめの項目（○）』に記載のある「…保育ニーズや低年齢児の保育需要への対応を強化する必要があります。」の文中に、「…保育ニーズや低年齢児の保育需要への対応を <u>について待機児童を発生させることの無いよう、計画的に強化する必要があります。</u> 」と、下線部の文章を加えていただきたい。	令和5年4月1日の調査時点において、待機児童数は0人であり、12月時点においても待機児童は発生していません。しかしながら、隠れ待機児童数は令和5年12月1日現在257人になっていること、また、国において新たに「こども誰でも通園制度（仮称）」の検討をしていることなどを鑑み、待機児童対策は言うまでもなく、保育の質と量を確保するため、現行の第2期小牧市子ども・子育て支援事業計画に基づき保育の受け皿整備を進めていますので、ご意見のとおり、追記修正をさせていただきます。 なお、同計画については、今後改定を予定しており第3期となる予定ではありますが、表記については「計画的に」とさせていただきます。	要

No.	分野	該当箇所	市議会からの意見	市の考え方（回答）	計画図書への反映 (要・不要)
10	教育・子育て	幼児教育・保育	『現況と課題』の『5つめの項目（○）』に記載のある「保育士が慢性的に不足しており、…」の説明文の冒頭に「本年問題となった、不適切保育は今後決して発生させることのないような体制づくりが必要です。（保育士が慢性的に不足しており、…）」と加えてはどうか。	本年度の不適切保育が発生した要因は、保育士不足ではなく、保育士がこどもに対して、どのような関わり方が適切なのかを十分に理解をしていなかったという保育士一人ひとりの認識や行動の問題であると認識しています。 また、「保育士の慢性的な不足」の表記については、審議会委員から「本市だけの課題ではなく全国的にいえることであり、かつ保育士のみならず幼稚園教諭も不足しているという課題がある」とのご意見をいただき、表記を変更させていただいています。	不要
11	文化・スポーツ	スポーツ	『現況と課題』に、「全国的、世界的に有名となるスポーツ選手を生み出すことは、市にとって名誉であり、その波及効果は大きい。その可能性を模索していく。」と、追記してはどうか。	有名なスポーツ選手を生み出すことは市にとって名誉であり、波及効果も大きいと考えます。一方で、まちづくり推進計画という市の根本となる計画の中では、一部の特定の方の支援ではなく、市民全体に対して、より多くの方がスポーツに興味関心を持ち、参加をしていただくことという視点で記載をさせていただいております。 なお、いただいたご意見についてですが、小牧市スポーツ協会において、スポーツ指導者の発掘・確保の充実や選手育成の促進、競技力の向上を目的として、ジュニア育成事業やスポーツ教室、各種大会等を開催しております。また、文化・スポーツ課と小牧市スポーツ協会にて、全国大会等に出場された方に対して激励費の支給を行っております。こうした個別の施策の中で競技者の能力向上や競技活動の支援を行っていきたいと考えております。	不要
12	文化・スポーツ	文化・芸術	『展開方向1』の『手段』の3つ目の項目（○）として、「こどもたちが文化・芸術に興味を持ち、ふれ、豊かな人間性を育むことができるように、こども向けの鑑賞事業を開催するとともに、・・・」とあるが、この文中に「小中学校のカリキュラムを活用する等」と、加えてはどうか。	こどもたちが文化・芸術に興味を持てるように、学校等と連携し、市内の小中学生にプロのオーケストラの演奏を鑑賞する機会や、書道や箏、落語などの伝統文化などを体験する機会を提供しております。そのような実情やいただいたご意見を踏まえ、『展開方向1』の『手段』の3つ目の項目（○）について、「こどもたちが文化・芸術に興味を持ち、・・・こども向けの鑑賞事業を開催するとともに、小中学校のカリキュラム等も踏まえながら、本格的な鑑賞機会を提供し、生涯にわたって文化・芸術に親しめる環境をつくります。」とさせていただきます。	要

No.	分野	該当箇所	市議会からの意見	市の考え方（回答）	計画図書への反映 (要・不要)
13	産業・交流	シティプロモーション	『まちの状態を表す指標』に『小牧市のイベント、施設に関する検索数』とあるが、「検索数」について、何で検索された数値とするか、明確にした方がよいのではないか。	指標及び指標値の説明につきましては、参考資料である「指標の説明」において明確にお示しする予定です。	不要
14	産業・交流	シティプロモーション	『展開方向1』の『手段』として、小牧を知ってもらう機会の創出として「フィルム・コミッション」の立ち上げについて検討してはどうか。	<p>フィルム・コミッションとは、地域活性化を目的として、映像作品のロケーション撮影が円滑に行われるための支援を行うことで、通常は公的団体がそれを担います。</p> <p>本市もこれまで、「どうする家康」関連番組をはじめ、令和元年にドラマ「「翔べ！工業高校マーチングバンド部」、令和4年度にドラマ「君が、おにぎり好きだから。」（ともに中京テレビ制作）や企業のCM撮影などにおいて、制作会社と協議しながら、宿泊施設やロケ地となる学校、店舗等の紹介、エキストラの募集をSNSで発信するなどフィルム・コミッションの組織と同様の協力をしてまいりました。</p> <p>このような活動を継続することで、市のPRや魅力発信につながることから、今後も市としてできる限りの協力をしていきたいと考えています。</p> <p>このことから、更なる小牧の魅力向上に資するため、豊富なノウハウ等を持つ「愛知県フィルムコミッション協議会(参加登録料無料)」への参加を検討してまいります。</p>	不要
15	産業・交流	農業	『展開方向3』の『手段』として、「貸し菜園・農業体験等の市民ニーズと維持管理費等のコスト面にも配慮した農業公園の整備を進める。」を加える。	市議会からのご意見を踏まえまして、手段「〇こどもや高齢者を含めたすべての世代の市民を対象に、市民菜園・農業体験等の身近な農業を通じて食の大切さに対する理解を醸成するとともに、農業振興の発信の場となることを目指し、農業公園を整備します。」に変更します	要

No.	分野	該当箇所	市議会からの意見	市の考え方（回答）	計画図書への反映 (要・不要)
16	都市基盤・交通	市街地整備	『現況と課題』に、「ライド・シェアや以前導入を見送ったデマンド交通などについての検討の可能性を排除せず、持続可能な交通体系の維持を模索しなければならないと考える。」と追記してはどうか。	<p>①現況と課題の2項目を以下のとおり修正します。</p> <p>（現在）今後も引き続き、適切な運行水準を維持するためには、利用しやすい鉄道駅施設などの整備や鉄道駅までのアクセス性の向上などによる利用者の利便性向上や、利用を促進するための啓発活動などにより、利用者数の増加を促進するとともに、都市計画マスタープランに掲げた将来都市構造や立地適正化計画に掲げた都市機能の立地を誘導するためのまちづくりとの連携のもと、鉄道・バス・タクシーなど、地域の輸送資源を総動員し、持続可能な交通体系の構築に努める必要があります。</p> <p>（変更）今後も引き続き、適切な運行水準を維持するためには、利用しやすい鉄道駅施設などの整備や鉄道駅までのアクセス性の向上などによる利用者の利便性向上や、利用を促進するための啓発活動などに取り組む必要があります。また、都市計画マスタープランに掲げた将来都市構造や立地適正化計画に掲げた都市機能の立地を誘導するためのまちづくりとの連携のもと、鉄道・バス・タクシーなど、地域の輸送資源を総動員する一方で、自動運転やAIデマンド交通などの新たな交通サービスの導入検討を行うほか、タクシー・自家用有償旅客運送等について国の制度・運用の改善に向けた検討が進められていることを踏まえて、持続可能な交通体系の構築に努める必要があります。</p> <p>②展開方向1の手段の1項目を以下のとおり修正します。</p> <p>（現在）慢性的な運転手不足に対応するため、自動運転に関する情報収集・分析・検討及び検証を実施します。</p> <p>（変更）慢性的な運転手不足に対応するため、自動運転などに関する情報収集・分析・検討及び検証を実施します。</p>	要
17	都市基盤・交通	市街地整備	『現況と課題』に、中心市街地と東部地域を特出した記載がある一方で、西部地域に関する記載がない。第4回審議会において、類似した質疑がなされており、答弁されているが、西部地域に関する計画等の記載はされないのか。	本市の発展のためには、市域全体のバランスをとりながら、総合的に施策を推進していく必要があると考えています。西部地区についても整備を進めていく考えでありますので、戦略3において西部地区における取組について追記しました。	要

No.	分野	該当箇所	市議会からの意見	市の考え方（回答）	計画図書への反映（要・不要）
18	都市基盤・交通	道路・橋りょう	『展開方向1』の『手段』の3つ目の項目（○）の文中に、「後退用地の拡幅、生活道路の確保及び緊急車両等の通行が可能となるように拡幅改良などによる・・・」、と下線部を追記する。	狭あい道路解消の目的は、安全で良好な生活環境の確保と災害に強いまちづくりの実現に寄与することであり、すなわち、生活道路に緊急車両が通行可能となることも意味しています。したがって、下線部の追加により市民の理解度が向上するものと考えられるため、ご指摘の内容について追記しました。	要
19	自治体経営編	行政サービス	（第1次基本計画に記載のあった「窓口業務などを改善・充実します」の方針に変更がない場合）『展開方向1』の『手段』として、窓口業務改革として、民間企業で導入されつつある「無人」を前提とした窓口の導入について検討を開始してはどうか。	「無人」を前提とした窓口につきましては、基本施策「行政サービス」の展開方向1の一つ目の手段「庁舎における窓口業務の手続きの簡素化や迅速化などを進めます。」の一つの手法として認識しています。近隣市町における導入状況を踏まえ検討してまいります。	不要
20	-	計画全体	【現計画（第1次基本計画）の適正な分析・評価の実施】 計画期間について、現計画の計画期間を令和元（2019）年～令和8（2026）年度とし、4年で見直すこととしており、今回、見直しのタイミングで次期計画（第2次基本計画）を新たな計画として策定されることとなった。次期計画（第2次基本計画）の策定にあたっては、現計画について適正に分析・評価をしていただきたい。	現計画の分析・評価につきましては、「小牧市まちづくり推進計画 第1次基本計画改定に係る基本方針」に基づき、現行計画の成果や新たな課題を抽出し分析する「棚卸し」を実施しました。 この「棚卸し」において抽出した課題等は、次期計画の「現況や課題」に記載することなどにより、次期計画との整合を図っています。	不要
21	-	計画全体	【現計画（第1次基本計画）との整合・調整】 現計画と次期計画（第2次基本計画）の整合について留意されたい。審議会における委員からの意見等をふまえ、現計画との整合を図り、調整されたい。	上記「棚卸し」を踏まえて、現計画と次期計画との整合を図っています。 また、審議会における委員からのご意見等につきましては、すべてのご意見等に対する市の考え方をお示しした上で、必要に応じて計画案を修正するなど、適切な対応に努めています。	不要

No.	分野	該当箇所	市議会からの意見	市の考え方（回答）	計画図書への反映（要・不要）
22	-	計画全体	計画改定にあたっての視点を踏まえ、次期計画（第2次基本計画）の特色が明確になるよう表記の工夫をされたい。	基本方針で示している「改定に当たっての視点」を踏まえ、次期計画では「第1章 計画の概要」に、「計画推進における横断的な視点」として、「SDGsの推進」「都市ブランド戦略の推進」「人口減少・少子高齢化への対応」「ダイバーシティの実現」「DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進」「カーボンニュートラルに向けた取組」を掲げています。 施策全般にわたりこれら6つの横断的な視点を明確にすることで、施策や分野を横断した連携が深まり、計画全体の推進効果をさらに高めることができると考えています。	不要
23	-	計画全体	【適正な分析・評価に基づく、計画の見直し】 次期計画（第2次基本計画）では、現計画に記載のあった「中間期における計画の見直し」から「市長任期にあわせて見直す」と修正されている。長期的計画の進行管理にあたっては、適正に分析・評価を行い、必要な改革・改善を実行するため中間期等での見直しも必要と考える。	次期計画では「市長任期にあわせて見直す」こととしています。 計画の進行管理につきましては、事業の立案、実施、評価といった1年毎の小さなPDCAサイクルと合わせて、市長選挙を起点とした大きなPDCAサイクルを回すことで、必要な改革・改善等を図ってまいります。	不要
24	-	都市ビジョン	都市ビジョンにおける『指標』、『目標値』の設定に対する考え方について、説明を補足されたい。	現計画では、市政戦略編で位置づけた3つの戦略ごとにそれぞれ2つの「まちの状態を表す指標（以下、「状態指標」という。）」を設定しています。この状態指標は、「都市ビジョン」にどの程度近づいているかを確認するための指標であることから、まちづくりの機軸となる都市ビジョンの状態指標とも言えます。 したがって、次期計画においては、状態指標の位置づけをより明確にするため、第II章 都市ビジョンで位置づける3つの都市ビジョンの状態指標として設定することとしました。 なお、いずれの指標も現計画の状態指標を継続しています。	不要



No.	分野	該当箇所	市議会からの意見	市の考え方（回答）	計画図書への反映 (要・不要)
25	-	市政戦略編	重点事業の調整について、説明を補足されたい。 ※例えば、「健康支え合い循環都市宣言の制定」、「地域協議会を通じた地域活動の活性化」、「プレミアム商品券による商業振興」、「食や名産品の普及開発」などの事業について、整理されたものや他の個別計画等で調整されている事業の有無について、補足されたい。	現計画策定後、コロナ禍を経て本市を取り巻く状況は大きく変わりました。このことから、次期計画の重点事業の検討に際しましては、現状を踏まえつつ、市長マニフェスト及び現計画の重点事業との整合も図りながら策定したところです。	不要